



# 奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



## 奈良の万葉歌碑めぐり ④

有本 倍美

甘樫の丘北展望台から東を望むと飛鳥寺（現在の安居院）がある。飛鳥寺はわが国最初の本格的仏教寺院で崇峻元年（588年）曾我馬子が百濟工人の来朝により建立を開始し、推古4年（596年）に完成した。この境内東南隅に歌人佐々木信綱が万葉仮名で揮毫した山部赤人の長歌と反歌がある。以下に直訳と意識を掲載したが実に調子がよい。

神丘に登りて 山部宿禰赤人の作りし歌一首

みもろの 神奈備山に 五百枝さし 繁に生ひたる 梅の木 の いや継ぎ継ぎに 玉葛  
 絶ゆることなく ありつつも やまず通はむ 明日香の 古き都は 山高み 川とほしろし  
 春の日は 山し見がほし 秋の夜は 川しさやけし 朝雲(旦雲)に 鶴は乱れ 夕霧に  
 かはずはさわぐ 見るごとに 音のみし泣かゆ(哭耳所泣) 古思へば (巻3-324)

反歌

明日香川 川淀去らず 立つ霧の 思ひ過ぐべき 恋(孤悲)にあらなくに (巻3-325)

神丘（今の雷丘か甘樫丘）に登って山部赤人が作った歌一首。

目前の神奈備山にたくさんの枝がのびて繁っている梅の木のように絶えることがなく、いつまでも通い続ける明日香の旧都は山高く川は雄大で、春は山が見たく、秋の夜は川がさやかで、夜明けの雲に鶴が乱れ飛び、夕霧のなかに河鹿が鳴き騒ぐ。見るたびに声を出して哭きたくなる。昔を思えば。反歌 明日香川の川淀を去らず立ちこめる霧のように、すぐ消えてしまうような明日香古都に対する懐旧の情ではないのだ。

と山部赤人は連綿とその心情を詠っている。歌碑めぐり②と同じくここに言う古き都は明日香浄御原宮であろう。100年続いた明日香京の廢都から新都を遠望すれば、新しい藤原京に馴染めないでいる懐旧恋慕の情ばかりである。そして、僅か16年で平城京に遷都した藤原京の事情について山部赤人は何も語っていない。赤人は聖武天皇時代の宮廷歌人で、天皇行幸などに随行した際の天皇讚歌が多く、万葉集には長歌13首・短歌37首があり柿本人麻呂とともに歌聖と称えられ、特に自然の美しさや清さを詠んだ叙景歌に定評がある。

田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける(巻3-318)

## イベント報告 佐保台の皆さんとの触れ合いの輪が広がる

### 佐保台小学校げんきクラブ 里山の秋といもほり大会

古川祐司

10月17日(土)晴 ならやまで、佐保台小学校げんきクラブの「里山の秋といもほり大会」が開催されました。昨年に続いて2回目となるこのイベントは、住民の皆さんの評判も良く、今回は児童30名に保護者、クラブ役員など21名、合計51名が参加する大盛会成为りました。

子供たちの感想では、竹工作が今年全員が自分の竹スリしました。ノコギリを使ったりするのは初めてでしたが、メンバーの皆さんとか無事作り終えま畑のナルトキントキ、す。自前の竹スコップでそ芋が顔をのぞかせ、子供たちは芋を手にして洗ったお芋が焼芋になって配られました。



面白かったということなので、コップを作ることになったり、ナタで削ぐという子供達もいました。の細心の指導で、なした。今年上々の出来でつと掘れば、大きなお芋を手にかざして歓声を上げて

午後、里山歩きは、残念ながら生憎の雨のため中止となりましたが、里の秋を堪能した子供たちは、お土産のお芋を手にして満足そうに引き上げていきました。

## <癒しの散歩道>

### 涙枯れた落ち葉の行方は別れの序曲

谷川 萬太郎

風に舞う枯葉よ 萎れた落ち葉の行方切なくて 陽射し弱く互いに身を寄せ合うように流され何処へ行くのだらう

木立の間をすり抜けた哀れみは語りかける言葉さえ失いかけて 誰の眼にも留まらぬように 険の奥に身を委ね

忍び寄る遠くて長い冬の旅支度さえも恨めしく 秋色に華やいたあの頃の走馬灯が 甦り奪われる辛さがやるせない

薄日差すひだまり探し求めて冷えた小さな胸が痛み 凍りつくよなその身を投げ出し 傷ついた裸の心を露にする

生まれ変わるために捨てられた悲しい落ち葉よ 足手まといと言われながらもちぎれた身体を引きずり涙浮かべて

壊れかけのか細い生命のかけらを失うまいと堪え 行く手を阻む木枯らしに無謀にも立ち向かう晩秋の移り香よ

寂しさ演出する澄んだホルンの響き寒空に冴えて 待ち焦がれた北国の山人達へ足早に訪れる初雪の便りが届いた

## イベント報告 佐保台小学校での昆虫観察会

木村 裕

佐保台小学校の「ゆめ教育プラン」に基づく課外授業の一環として、当奈良・人と自然の会による支援活動第2弾、“校庭昆虫観察会”が10月21日に催されました。季節柄昆虫はもう見られないのではないかと心配されましたが、天気がよかったこともあり、予想外に多くの昆虫がとび出し、子供たちもおおはしゃぎで、けがもなく無事に終えることができました。また当日は、昆虫の先生が？菊川さんと私の二人しかいないとのことで、運営がうまくゆくかどうか不安いっぱいでしたが、応援にきてくださった会員の方々の協力によって混乱もなく終えることができ、厚く感謝しております。“昆虫のことをよく知り、昆虫に親しむ”というテーマのもとに、第1部は昆虫についての基礎知識の再確認、第2部は校庭での野外観察、第3部は昆虫に直接手で触れての観察、というメニューを準備しました。



第1部では、昆虫の単なる基本的な知識のおしゃべりをするのでは、子供たちにとっては面白くなくすぐに飽きると思われたので、写真でまず虫の姿をみせ、ついでそれに関する問題を質問形式でだし、3～5の答の中から正しいものを選んで答えてもらうようにし、かつ子供たちを6つの班に分け、班ごとに競争させたところ、非常にエキサイトし、みんな楽しんでもらえました。落とし穴のある問題もありましたが、子供たちは予想外によく知っており、知識の再確認ができたものと思われます。

第2部では、低学年（1～2年生）と高学年（3～5年生）の2つのグループに分け、校庭を反対方向に一周することにしました。虫が見つからない恐れがありましたので、2日前にわな（誘引トラップ）を仕掛けておきましたが、残念ながら捕まったのは少しばかりでした。しかし、オオオサムシ、エンマコオロギ、セアカゴミムシ、ゴキブリの子供、ダンゴムシなどが入っていたので、それなりに演技してもらいました。じゃあこれから観察をはじめましょうというやいなや、子供たちはわっと四方に散らばり網でバッタを捕らえる子、網のない子は手づかみで、草むらに必死で逃げ込むコオロギを追い回す子、トカゲを捕らえる子供等等、みんな夢中で草むらの搜索を始めました。昼寝の夢をむさぼっていた虫はさぞ驚いたことでしょう。結局私たちが事前に調べておいた以上に多くの種類の虫がとび出しました。

第3部では、写真を使って保護色と擬態の話、枯葉に紛れて見つかりにくくなっているバッタやチョウ、ハチと紛らわしいガなど、昆虫が天敵から逃れる知恵が紹介されました。ついで、ミノムシの糞の分解作業と内部にいるムシの観察、ついで生きたアオムシ、イナゴ、コガネムシの幼虫の観察を行わせたところ、みんなぎゃあぎゃあ言いながらも夢中で手にとって観察？遊んで？いました。一部の女の子はアオムシをみると、跳びあがって逃げ回っておりましたが、おそろおそろ触り始めた子もいたので、虫に触れるテーマもなんとかこなせたかと思えます。今回、校庭で観察された虫、あるいは不幸にして捕らえられた虫の代表：\*チョウ類：キチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマトシジミ \*トンボ類：ウスバキトンボ、アキアカネ\*甲虫類：センチコゴネ、オオオサムシ、セアカゴミムシ、ヨモギハムシ\*ハチ類：セイヨウミツバチ\*バッタ・コオロギ類：エンマコオロギ、オカメコオロギ、ホシササキリ、イナゴ、マダラバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、ハネナガヒシバッタ、コカマキリ。この中で子供たちと親しくお付き合いをした虫達は、バッタ・コオロギ類でした。

観察会はそれなりに盛況に終わりましたが、運営面ではまだまだ改良する点がかなりあるようで、次の機会にはインブリの手法を取り入れたいものです。

（参加スタッフ：菊川、木村、阿部、岩田、小田、塩本、寺田、林、平井）



## イベント報告 黒髪山自然塾との共同イベントの感想

小嶺敏勝

10月25日天気は良好、小学生1年から6年生迄の61名が、9時半なら山里山林へ幹事の境さんに黒髪山から引率されて到着。これだけ大勢の子供達を一度に迎えるのは初めてだ。昨年は生憎の雨で芋掘りその他、大変であったが今回はその経験を生かすべくスタッフは周到な準備で望んだ。

今年は、芋掘りの為のタケスコップ(移植ごて)を子供達に確実に作らせ全員が完成する迄は芋掘りは始めない、又そのスコップで掘る事にした。子供達は自分で道具を作りそれを利用する経験は稀なため、熱心に取り組んでいた。

スタッフの指導にもよるが、怪我も無く全員が完成させ、大いに楽しみながら芋掘りをし、土に汚れたスコップは全員が持ち帰ってくれた。

午後は黒髪山に移動してドングリでコマ作りをした。高学年には物足りないのでは、と心配したが意外にも種々なドングリでコマ作り、最後には6班に分かれた子供達の代表で回転の長時間競争をして優勝を争い最高に盛り上がってくれて安堵した。

丁度、焼き芋も出来上がった。飽食の時代にも自然の中で遊び、熱々の甘いイモを食べる事は格別のように、大きなイモを1個ずつ満面の笑みで食べているのを見ると、こちらも嬉しくなる。来年も又楽しんでもらおう。スタッフの皆様、お疲れさまでした。

## 奈良県立大学 地域創造学部 インターン生 「ならやま」体験実習の受入れ

弓場 厚次

10月度より当会では初めて大学生の学外授業の一環として体験実習を受け入れました。受け入れ大学は奈良県立大学 地域創造学部の学生で、2回生の4名を10月29日(木) 定時より「ならやま」に受入れ、初日はオリエンテーションからスタートいたしました。インターン生は初々しく学習意欲に燃え、『里山の景観を守ろう』をテーマに未知の体験実習を経験して頂きます。



実習期間は僅か4日間の短期間ですが、体験実習が授業の一部として評価され、学内での単位の認定や少しでも学生の将来の夢への礎の糧となる様なスケジュールを設定しております。

各テーマの指導者を初め、会員の皆様には「ならやま」で温かくインターン生をご指導いただきます様よろしくお願いいたします。

インターン生名 實井 沙緒里 田村 雅世 中山 文平 小塚 勇征 (4名)

### スケジュール概要

実施日	テーマ	
10月29日(木)	am オリエンテーション・ならやま見学	pm 南高梅 植付け床整備作業
11月26日(木)	am 竹林整備作業(孟宗竹 間伐作業)	pm ビオトープ設置整備作業
12月 3日(木)	am 里山林整備作業	pm 耕運機実習作業
12月19日(土)	am 畑芋掘り作業・コナラ ほだ木作	pm 里山体験 報告会

# ならやまプロジェクト・レポート 21年11月



(古川 祐司 記)

- 10月16日(金)晴 シニア自然大学環境科 来訪 40名  
・環境科の皆さんが来訪。フィールドの見学、阿部会長以下と意見交換をしました。ならやまの自然の素晴らしさと、これを支える当会の活動に感銘を受けたとお褒めいただきました。
- 10月17日(土)晴のち雨 佐保台つ子元気クラブ 芋ほりイベント 51名 当会27名  
・昨年来2回目のイベントは評判も良く、児童30名に保護者、学校関係者21名が参加する盛会となりました。(関連記事 別掲)
- 10月22日(木)23日(金) 佐保台小 5年生 脱穀と粃すり 児童9名 合計13名  
・稲作りの実習は大詰め。22日は昭和18年製の足踏み式の機械で脱穀をする。最新式のコンバインも稼働し、生徒たちは機械の威力に驚いていました。22日、校庭で「粃すり」を体験。以上で5月の田植えに始まった稲作り体験実習は無事修了しました。この間一貫して指導に当られた鈴木末一さん、バックアップした当会の皆さんに対し、校長先生、担任の先生から丁寧なお礼の言葉を頂きました。
- 10月25日(日) 黒髪山自然塾との協働イベント 参加者 児童61名 当会16名  
・午前中はならやまで、竹工作と芋ほり、午後は黒髪山キャンプフィールドでドングリ工作。このイベントも3回目ともなれば、すっかり手慣れたもので、サツマイモの出来栄も、焼き芋の味も、自然工作も上々の結果と自然塾の幹部から高く評価されました。
- 10月29日(木) 山の日 参加者当会 21名、 ビジター8名  
・奈良県立大学地域創造学部のインターン男女計4名が参加、レクチャー、梅の植え床作りに取り組みました。(関連記事 別掲)  
・NPO 桜井菜の花プロジェクトの方々4名が見学に来られました。
- 11月5日(木) 梅の植え床作り完成、蕎麦刈り取り、タマネギ植付け 参加者24名  
・梅林の植え床は16か所、盛り土と、元肥等の土作りが完了。21日の植付けの準備OK。  
・a地区の畑では、タマネギ500本とエンドウの植付け、女性パワーが中心となって完遂。  
・蕎麦の刈取りとハサ掛けは男性が分担、稲刈りの経験が生きて手際よくやり終える。残念ながら作柄は不良とて、やや意気の上がない作業となりました。
- 11月9日(月) 野鳥調査の日 参加者 7名  
・本日の収穫はオオタカ。目の前を東南から北西へ悠然と飛ぶ姿に、全員が歓声をあげました。
- 11月12日(木)晴 佐保台幼稚園ディ・キャンプ 参加者32名、臨時山の日 19名  
・佐保台幼稚園の園児、保護者、先生計32人がリース作り、豚汁、里山散歩を楽しみました。ならやまの自然に魅せられ、我々の活動に共感される人の輪が確実に広がっているようです。  
・c地区笹藪刈取りと、アカメガシワ伐採、蕎麦畑跡にレンゲソウの種をまきました。
- 11月16日(月)晴 臨時活動 蕎麦の脱穀  
・天候の成行きを案じられて、急遽蕎麦の脱穀を実行しました。収量は5kg、何とか蕎麦打ちまでやりたいものです。腕に覚えのある方のお助けをお願いします。 以上

\*ならやま里山林花だより\*

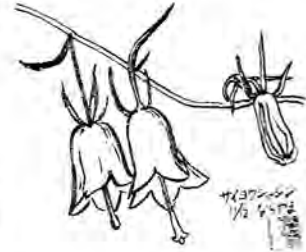
守口 京子

11月12日(木)秋の花が盛りを過ぎ、野山が色づいて美しい晩秋を迎えようとしています。  
木や草の実…ノブドウ、ツルアリドオシ、ヘクソカズラ

紅葉・黄葉・落葉…エノキ、アカメガシワ、ニセアカシア、カキノキ、ハゼノキ、ヤマウルシ、ヌルデ、カマツカ、タカノツメ、コシアブラ、ネジキ、リョウブ

10月末、数名でならやまの観察をした時に道端に青いきれいな花を見つけました。「ツリガネニンジンに似ているけどちょっと違う」と言ったものの、残念ながら誰も名前を知りませんでした。

11月に同じ花が別の場所に咲きました。花柱の先の丸い雄性期の花と、花柱の先が3裂した受粉期のものと蕾と3つ並んでいました。サイヨウシャジンではないでしょうか？



自然俳句欄

平城山に赤米の禾さわさわと 孝守 (鈴木末一)

雑草に覆われていた水田跡地。多くの方の努力で見事に復活し、豊作の期待を担って赤米の穂が秋風に揺れている。

稲刈るや弾む鎌もて子ら躍る 孝守

早苗が見事な株に成長。初体験の鎌を持つ手の手慣れの早さに驚かされる。どンドン刈り取りがはかどり、子らの歓喜の声が広がる。

ろうかん  
琅玕の百も二百も柿日和 秀夫

今年も里山の柿のシンボルツリーは健在。  
日に透けて丸で珠玉の様だ。琅玕は美しい玉の意。

とりみ  
しばらくは鳥観の丘に鷹の天 秀夫

鳥の日に初参加。思いがけずオオタカの飛翔を見る。  
一瞬の感動。人の世をあざ咲う様に彼方に消える。

# 一粒の種籾に託して

鈴木 末一

ならやま里山林プロジェクトのフィールドでは、里山と畑の整備は進んでいたが、水田がなかった。約250㎡ほどの田圃跡には、茅、チョウジタデ、ミゾソバ、ガマ、ホタルイなどが繁茂してしまい、今やたわわに稔った稲穂が靡いていた情景を偲ぶ縁もない状態であった。この地の様子を熟知している方から、「あの水田は秋落ちしないで。」との耳寄りな情報を得た。雑草を取り除き水田化を図れば、それなりの景観形成に役立つのではとの想いで水稲栽培を提案してみた。案の定、逡巡する意見が大半を占めていること（想定内）を側聞していたが、「田圃が一枚増えたと思えば、そんなに負担にはなりません。」この言葉を拠り所に水田化することを決断していただいた。

県当局との折衝の過程での紆余曲折を経て、大型トラクターによる整備作業が始まった時、「有言実行。」「為せば成る。為さねば成らぬ。」と自分に言い聞かせた。

時間の経過とともに、佐保台小学校児童の体験学習のフィールドとして活用するプランが持ち上がり、トントン拍子に話は進んでいった。

5年生11人（男5、女6）が、5月に約1時間の事前学習、そして6月4日の田植えから10月23日の籾摺り体験までの約5か月間、初めての実体験学習を経験してきた。この間、子どもたちが見せてくれた色々な表情の中で、印象深い数コマを紹介すると、

- ① 事前学習で米生産量のグラフを見て、極端な変化の部分を目ざとく見つけた時
- ② 田植えの時、素足の裏で感じた泥の感触への反応
- ③ 田植えから約1か月後、10倍近くに増えた稲株の成長ぶりを確かめている眼差し
- ④ 台風18号の強風にも倒伏することなく、たわわに稔った稲穂を見つめる目
- ⑤ 約65年前の足踏み式脱穀機に稲束を入れると籾が割合簡単に落ちた時
- ⑥ 高さ60cmのコンパクトなインペラー（羽根車）式籾摺り機のホッパーに籾を入れると、いとも簡単に玄米になった時

これらの節目に見せてくれた多くの表情は、単に「感嘆」や「驚き」の表れとして受け止めるのではなく、感じたことを率直に、純真な心の動きとして表現してくれたものと思う。

3人の男子児童が、籾摺りが終わった後、こぼれた玄米の一粒一粒を丁寧に拾っていた。稲刈りの時に「落ち穂拾い」の話をしたが、そのことを覚えてくれていたのだろうか。いやそうではない。学校や家庭における日頃の躰指導の賜物であると思う。

子どもたちにとって一連の水稲栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず。」であり、

- ① 安全でおいしいお米を育てるには
- ② 身近な食べ物から世界の食べ物へ
- ③ 食を通じた健康や生命について

等の発展学習に取り組んでくれることを期待したい。また、楽しく意欲的に学ぼうとする姿を見るにつけ、

「自ら課題を見つける。」

「自分の力で課題解決に取り組む。」

「心豊かに表現する。」

「学んだことから自分の食生活などを考える。」

といった、私なりの期待する児童像に、11人全員が一步一步近づいていってくれるものと信じている。



終わりにになりましたが、多くの会員諸氏並びに佐保台小学校の先生方の力の結集により、一定の成果を上げることができたことを申し添えておきます。

一粒の倍々倍と実る秋

赤米の稲穂にかける子らの夢

脱穀機踏み踏みしてや子ら躍る



クリスマスローズ Christmas rose

5 年ほど前に、いただいたクリスマスローズがどんどん株を増やし、冬の庭をにぎわしています。

原産地 ヨーロッパ、西アジアなどに分布する。多年草で、長い葉柄をもった鳥足状の葉をつける。

花言葉は、中傷、追憶、思い出

誕生花 12月20日 12月26日他にもあるようです。

キンポウゲ目

キンポウゲ科

クリスマスローズ属

学名 Helleborus niger

Helleborus :クリスマスローズ属(ギリシャ語「地獄」から荒れた土地に自生する)

niger :黒い

花期は、12月から3~4月まで咲くようですが、12月のクリスマス時期に咲く、バラに似た花から、この名前がついたようです。寒さに強く、雪を持ち上げて花を咲かせることから別名「雪起こし」とも呼ばれています。



クリスマスローズ  
Helleborus niger

ちいさじょうほう

★[榎原より]10月29日午前9時半頃一軒隣りの家の方からキョキョ・ケキョとウグイスの鳴き声が聞こえた。何年か前も秋遅くよく鳴いていたっけ。妙に暖かかったりしたのでそのせいかな? 11月10日ウグイスの地鳴きが庭で盛んに聞こえました。

うちの「アオちゃん」といっているアオジが今冬初到来。今年も忘れずきてくれ また会えた・・と喜んでいる。

(斎藤)

★[斑鳩より]11月15日ツグミのシロハラ・ルビタキを待つ  
信貴山大門池でオシド  
ってきています。この冬は



ツグミ

(1羽)この冬初めて見ました。常連さ  
ています  
リを見ました。年々数が少なくな  
どうでしょうか? (勝田)



斑鳩龍田公園もみじ祭り

カエデの紅葉、エノキの黄葉大変  
きれいになりました。

朝からお餅つきの準備をしていました  
フリーマーケットも出て年々にぎ  
やかになってきています。



## シマフクロウ

小田 久美子

アイヌ語で「コタン・コロ・カムイ(村の守り神)」と呼ばれ崇められてきた世界で最も大型のフクロウです。

「ポーポー」「ウー」、♂と♀の「どこだい」「ここにいるよ」と鳴き交わす声は何やら物悲しく聞こえます。数が激減し、国は72年に天然記念物に指定しましたが現在推定130羽。「絶滅危惧ⅠA」指定、最も絶滅が危惧されています。シマフクロウ保護に対する予算は年間2千数百万。「巣箱」かけや給餌などで消えてしまいます。私の仕事館などの「箱もの」を作る時には驚くほど財布の紐が緩いのに。日本のお寒い行政の一例です。交通



事故・電線での感電死や、養魚場の網にかかって命を落とすもの。心無いカメラマンによって巣を放棄するもの。開発により、知床・根室・十勝に生息地が分断され血が濃くなっていて生存率も低くなる。「いまなら間に合う」と心ある人たちが「シマフクロウの森づくり100年事業」に取り組み、ミズナラ、ツバキ、ツカガなど53,000本の広葉樹を植え河畔林の復元をしています。活動を支えているのは、神の鳥の無言の叫びに耳を傾けようとする人々の思い。命を繋ぐ植樹は少なくともあと84年。

### お知らせ

お知らせの通知アイコン

## 「赤米」お頒けします

ならやまの田圃で栽培した赤米（古代米）の新米を会員の皆様にお頒けします。

お米に1割程度を混ぜて炊けば、食味豊かな赤飯が出来上がります。赤い色素はポリフェノールがたっぷり含まれて、体にも良いと云われています。一度、是非是非お試しください。

価格：(300g) 200円

<ならやまプロジェクトの活動資金とさせていただきます>

申込は、ならやまプロジェクト 事務局 古川祐司まで

\* お引渡しは、ならやま活動日、または例会の日での現地渡しとさせていただきます。



\*原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止\*

## 『ならやま里山林プロジェクト12・1月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

- 場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）  
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—  
（案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）
- 日時： 12月 3日（木） 一般活動日・奈良県立大インターン受入れ  
12月10日（木） 臨時山の日（希望者のみ）  
12月14日（月） ならやま野鳥調査の日（小雨実施）  
12月17日（木） ならやま山の日（里山整備）  
12月19日（土） いも煮会・教育実習生・奈良県立大インターン受入れ  
12月23日（水） 迎春準備（しめ縄、門松、正月野菜 希望者のみ）  
1月 7日（木） 初出と餅つき  
1月11日（月） ならやま野鳥調査の日（小雨実施）  
1月14日（木） 臨時山の日（希望者のみ）  
1月23日（土） 一般活動日・教育実習生  
1月28日（木） ならやま山の日（里山整備、椎茸ホダ木玉切り）  
1月31日（日） 雨天予備日
- 集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時
- 交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行（平日・土曜）  
②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発 JR奈良行（平日）  
8：30発 JR奈良行（土曜）  
①②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分
- 12月19日「いも煮会」に、マイカーでの参加は禁止いたします。
- 携行品など：・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）服装は防寒にもご留意を。  
\*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。
- 活動内容：・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成  
復元田畑の農事作業、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り
- \*自由活動日について：火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は担当幹事までご連絡下さい。
- \*担当幹事： 古川 小嶺 岩田

**\*ならやま野鳥調査**～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：12月14日（月）

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田 ・菊川



## 12月度例会 『忍辱山円成寺から滝坂の道トレッキングと忘年会』

日時： 12月7日(月)

### 1. 忍辱山円成寺から滝坂の道

集合：近鉄奈良駅前 奈良交通バス4番乗り場 時間 9:30 集合 厳守

行程：近鉄奈良駅前バス 9:40 ~ 円成寺 ~ 峠 ~ 滝坂の道 ~ 飛び火野解散  
15:00(およそ12km) なお、JR奈良駅より奈良交通バス6番乗り場 邑地中村(柳生行き) 9:37 発に乗っていただいても結構です。(忍辱山バス停車)

\*なお前号にて円成寺とあったのは円成寺の間違いです。謹んでお詫び申し上げます。

### 2. 忘年会

時間：17:00 ~ 19:00

場所：万葉荘(Tel 0742-26-7933) 近鉄奈良駅徒歩約10分。奈良公園東南角で飛び火野こえすぐ右側。

費用：4,500円

担当：大石 板橋

申し込み\*忘年会参加の方は12月1日(火曜)までにお知らせください。

※ 前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前)60%以上の場合は例会を中止しますが、忘年会は行います。

※ 温度が市内より2-3度低いので寒さ対策と手袋を用意された方がよいと思います。

## パソコン教室延期のお知らせ

12月21日(月)、第2回パソコン教室開催について11月会報(94号)でお知らせしましたが、お世話になります奈良県立朱雀高校の事情により延期いたします。

次回の開催時期については、追ってお知らせします。

その節は、改めて受講の申込をお待ちいたしますので、ご協力お願いいたします。

担当：岩田利秋

## <1月の予定>

### 1月例会 「新春講演会」

日時：1月16日(土) 10時~12時

講師：渡辺弘之氏(京都大学名誉教授)

会場：奈良市中部公民館

テーマ：下記を予定しています



### 「森林をどう扱い どんな森林を作るのか」

\* 森と林、人工林と天然林(自然林)の違いなど  
森林について考えてみる

\* 里山ではどんな森林をつくるのか、どんな目的を  
持たせるのか

\* さらには、害獣、ナラ枯れ(カシノナガキクイムシ)  
問題など、森林にまつわる多様な話題を話し合う

担当：阿部和生

・古川祐司

\* 詳細は会報第96号(1月号)でお知らせします

## 平成21年11月度幹事会議事録

日時：平成21年11月10日（火）場所 奈良市中部公民館 司会：勝田 記録：板橋

### 〔報告事項〕

- ① 会員数：108名
- ② 10月例会 「生駒路の自然と文化を訪ねる」 参加者19名（新会員の参加少ない）
- ③ シニア自然大学校研究部環境科 来訪：39名。大きなスケールでの社会的活動に感嘆
- ④ 公開イベント 「里山の秋」(10/17)・「黒髪山自然塾」 10/25。詳細は会報に。
- ⑤ 「ならやまプロジェクト」詳細は会報に。
- ⑥ 「校庭観察会(昆虫)」 10/21 36名（当会からは9名）
- ⑦ 奈良県立大学インターン生受け入れ： 10/29 に第1回目が実施された。この日を含め4日間、午前、午後の合計8コマで行われる。地域創造学部より4名(男2、女2)が参加。

### 〔確認事項〕

- ① 佐保台幼稚園 「ならやま遠足」 前日雨の場合は9:30より幼稚園にて行う。昼食の前にどんぐりのコマ返しを入れる。
- ② 「生駒市環境シンポジウム」 出展展示 11/15（日） 展示パネル、ちらし、会報。担当3名決定。
- ③ 11月例会 11/27（金） 「奥飛鳥の秋」。
- ④ 12月例会 12/7（月） 「忍辱山円成寺から滝坂の道と忘年会」。  
忘年会は「万葉荘」。人数確定のため12月1日受付しめきりとする。
- ⑤ 「パソコン教室」（12月21日）は会場校の事情で延期。
- ⑥ 新年講演会 1月16日（土） 10:00 - 12:00 渡辺先生（京大名誉教授） 講演内容は未定。会場は奈良市中部公民館

### 〔討議事項〕

- ・今後の幹事会体制、会員名簿の配布の件等について討議。

編集後記：\*「ならやま」でのいも掘り、自然工作、稲刈り・脱穀の報告。参加した子供たちの明るく元気な声が、あの谷間に響き渡っていた様子が浮かんできます。  
\*今月の会報の写真は、阿部・古川（祐）・弓場の皆さんから提供いただきました。有難うございました。\*会報発送作業：会報1月号の作業は12月25日(金)です。「奈良県西奈良ボランティアセンター」で午前9時からです。ご都合のつく方のご協力をお願いします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生